

2 穀類、野菜類、花き類の除草

(1) 一般的な注意事項

- ア 処理適期を逃さないよう処理する。
- イ 処理時期・薬量は、使用基準を厳守しないと効果が劣ったり、薬害の原因になる。
- ウ 土壌処理剤は土壌をできるだけ細かく砕土、均平にして処理しないと効果が劣る。
- エ 土壌処理剤では、土壌が非常に乾燥しているときは効果が劣るので、土壌が適度に湿っているとき、または適度に湿らせてから薬剤を処理する。
- オ 土壌の過湿状態での処理は薬害を生じるので注意する。
- カ できるだけ同一薬剤を連年使用しない。
- キ 効果持続期間が長く、後作物に影響する薬剤もあるので注意する。
- ク 野菜類、花き類は一般に除草剤に敏感で、特に砂質土壌や施設栽培では薬害を生じやすいので、あらかじめ小面積でテストしてから使用するなど、細心の注意を払う。
- ケ 除草剤散布時には、ゴム手袋、マスクなどを使用し、危害防止に十分注意する。

(2) 野菜類、花き類の除草剤の例

ア 土壌処理型除草剤の例

【トレファノサイド乳剤（トリフルラリン 44.5%）】

適用作物名	10a 当たり使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	トリフルラリンを含む農薬の総使用回数	使用方法
かぶ	150ml (100 L)	は種直後	1 回	1 回	全面土壌散布
キャベツ(移植栽培)	200~300ml (100 L)	定植前(植穴掘前)	1 回	1 回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
だいこん(露地栽培)	150~200ml (100 L)	は種直後	1 回	1 回	全面土壌散布
はくさい(移植栽培)	200~300ml (100 L)	定植前(植穴掘前)	1 回	1 回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
非結球あぶらな科葉菜類	150~200ml (100 L)	は種直後	1 回	1 回	全面土壌散布
ブロッコリー	200~300ml (100 L)	定植前(植穴掘前)	1 回	1 回	全面土壌散布
きゅうり [露地栽培(移植栽培)]	200~250ml (100 L)	定植前(植穴掘前)	1 回	1 回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
すいか(露地栽培)	200~300ml (100 L)	定植キャップ後 (収穫45日前)	2 回以内	2 回以内	全面土壌散布
すいか (トンネル・マルチ栽培)	200~300ml (100 L)	定植前(植穴掘前) (マルチ前)	2 回以内	2 回以内	全面土壌散布
		収穫45日前までの生育期 (トンネル除去前)			うね間土壌散布
トマト(露地栽培)	200~300ml (100 L)	定植前(植穴掘前)	1 回	1 回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【トレファノサイド乳剤（続き）】

適用作物名	10a 当たり使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	トリフル ラリンを 含む農薬 の総使用 回数	使用方法
ミニトマト(露地栽培)	200~300ml(100L)	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
ピーマン(露地栽培)	200~300ml(100L)	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
なす(露地栽培)	200~300ml(100L)	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
とうがらし類(露地栽培)	200~300ml(100L)	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
えだまめ	200~300ml(100L)	は種前	1回	2回 以内 ※	全面土壌混和
		は種後出芽前			全面土壌散布
		定植前(植穴掘前)			全面土壌散布
		生育期(収穫45日前)			うね間土壌散布
さやいんげん(露地栽培)	200~300ml(100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
さやいんげん (露地・マルチ栽培)	200~300ml(100L)	は種前(マルチ前)	1回	1回	全面土壌散布
さやえんどう(露地栽培)	300ml(100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
実えんどう(露地栽培)	300ml(100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
たまねぎ(本畑)	200~300ml(100L)	定植後(収穫75日前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
にんじん	200~300ml(100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
ねぎ	200~300ml(100L)	定植後雑草発生前 (収穫30日前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
わけぎ	200~300ml(100L)	定植後雑草発生前 (収穫30日前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
レタス(露地栽培)	200~300ml(100L)	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
非結球レタス(露地栽培)	200~300ml(100L)	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
葉ごぼう(露地栽培)	200~300ml(100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
ふき	300ml(100L)	定植直後	1回	1回	全面土壌散布
みつば	300ml(100L)	は種後出芽前	1回	1回	全面土壌散布
しそ	300ml(100L)	定植後雑草発生前 (収穫30日前)	1回	1回	うね間土壌散布
アスパラガス	200~300ml(100L)	萌芽前または収穫打 切後(雑草発生前)	1回	1回	全面土壌散布

※但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、うね間土壌散布は1回以内

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【トレファンサイド乳剤（続き）】

適用作物名	10a 当たり使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	トリフル ラリンを 含む農薬 の総使用 回数	使用方法
さといも	300～400ml (100 L)	植付後 (植付7日後まで)	1回	1回	全面土壌散布
だいず	200～300ml (100 L)	は種前	1回	2回 以内 ※1	全面土壌混和
		は種後出芽前			全面土壌散布
		定植前 (植穴掘前)			全面土壌散布
		生育期 (収穫45日前)			うね間土壌散布
かんしょ	200～300ml (100 L)	さし苗前雑草発生前	1回	3回 以内 ※2	全面土壌散布
		さし苗後雑草発生前 (収穫60日前)	2回 以内		全面土壌散布 または うね間土壌散布
きく (露地栽培)	200～300ml (100 L)	定植後	1回	1回	うね間土壌散布
チューリップ	200～300ml (100 L)	植付後～萌芽前	1回	1回	全面土壌散布
ゆり	200～300ml (100 L)	植付後～萌芽前	1回	1回	全面土壌散布
ひまわり	200～300ml (100 L)	は種後出芽前	1回	1回	全面土壌散布

※1 但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、うね間土壌散布は1回以内

※2 但し、さし苗前は1回以内、さし苗後は2回以内

効果・葉害等の注意

- ・ 本剤は1年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）対象である。イネ科雑草に比べ広葉雑草に対してはやや効果が劣る。
- ・ 発生している雑草には効果がないので、雑草発生前に均一に散布するか、または、中耕除草・培土等により除草してから散布する。
- ・ 土壌が非常に乾燥している時は効果が劣る場合があるので、土壌を適当に湿らせるか、降雨の後に散布を行う。
- ・ 畑作物のは種後に使用する場合には、作物が出芽してからの使用は避ける。うね間・株間に使用する場合、作物にかからないようにする（葉害）。また、実散布面積に応じて使用量を調節する。定植後のうね間土壌への散布は、定植直後から雑草の発生する前までに行う。
- ・ 覆土は細かく砕いた土を用いて、薄すぎないように丁寧に行う。特にさやいんげん、いんげんまめ、あずきは覆土深が2～3cmになるよう注意する。（葉害）
- ・ 間引き菜、つまみ菜には使用しない。
- ・ レタスでは、6葉展開期以前では使用しない。（葉害）
- ・ きゅうりに使用する場合には、砂土～砂壤土での使用は避け、地這栽培では使用しない。定植前に使用する場合、植穴を掘る前に使用する（葉害）。
- ・ なすでは、定植3日前までに使用する。（葉害）
- ・ だいこんでは、薬量を厳守し、砂土では低薬量で使用する。（葉害）
- ・ 葉ごぼうでは、初期の本葉に葉害症状を生じることがあるが、その後の生育には影響はない。
- ・ かんしょに使用する場合、活着するまでに使用する。有機質含量の少ない砂質系土壌では使用しない。（葉害）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

— 除草剤 —

- ・ だいず、えだまめでは、マルチ栽培では使用しない。(薬害)
- ・ さやいんげんのは種前マルチ前に使用する場合は、露地マルチ栽培で使用し、は種部分のマルチ穴開け後2~3日してからは種し、無処理の土で覆土する。
- ・ 非結球あぶらな科葉菜類、なばな類、かぶでは、薬量を厳守し、砂土での使用は避け、覆土はていねいに碎土した土壌を用いて厚めに行う。(薬害)
雨よけ施設で使用する場合は薬害をさけるため、両すそを上げ通気を良くし、加温はさけ、低薬量で使用する。
は種前に十分かん水し、薬剤散布後1~2日間はかん水しない。また高温時の散布は避ける。密閉した施設及びトンネル栽培での使用は避ける。
- ・ アスパラガスのホワイト栽培では培土直後または、培土崩し後に使用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【トレファノサイド粒剤 2.5 (トリフルラリン 2.5%)】

適用作物名	10a当たり 使用量	使用時期	使用 回数	トリフル ラリンを 含む農薬 の総使用 回数	使用方法
キャベツ(移植栽培)	4~6kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
はくさい(移植栽培)	4~6kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
みずな(直播栽培)	3kg	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
ブロッコリー(移植栽培)	4~6kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
きゅうり[露地栽培(移植栽培)]	3~4kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
すいか(トンネル・マルチ栽培)	2~4kg	定植前(植穴掘前)(マルチ前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
	4~5kg	収穫45日前までの生育期 (トンネル除去前)			うね間土壌散布
かぼちゃ(トンネル・マルチ栽培)	2kg	定植前(植穴掘前)(マルチ前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
	4~5kg	収穫45日前までの生育期 (トンネル除去前)			うね間土壌散布
トマト(露地栽培)	4~5kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
ミニトマト(露地栽培)	4~5kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
なす(露地栽培)	4~5kg	定植前(植穴掘前)	1回	1回	全面土壌散布
		定植直後			うね間土壌散布
えだまめ	4~6kg	は種後出芽前	1回	2回 以内 ※	全面土壌散布
		定植前(植穴掘前)			
		生育期(収穫45日前)			うね間土壌散布
さやいんげん(露地栽培)	4~6kg	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
さやいんげん(露地・マルチ栽培)	4~6kg	は種前(マルチ前)	1回	1回	全面土壌散布
たまねぎ(本畑)	4~5kg	定植前(植穴掘前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
		定植後(収穫75日前)			
		生育期(春期) (収穫75日前)			うね間土壌散布
にんじん	4~6kg	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
ねぎ	4~5kg	定植後雑草発生前 (収穫30日前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
わけぎ	4~5kg	定植後雑草発生前 (収穫30日前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
レタス(トンネル・マルチ栽培)	3~4kg	定植前(植穴掘前)(マルチ前)	1回	1回	全面土壌散布
非結球レタス (トンネル・マルチ栽培)	3~4kg	定植前(植穴掘前)(マルチ前)	1回	1回	全面土壌散布
さといも(葉柄)	4~6kg	植付後(マルチ前) (植付7日後まで)	1回	1回	全面土壌散布

※ 但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、うね間土壌散布は1回以内

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【トレファノサイド粒剤 2.5 (続き)】

適用作物名	10a当たり 使用量	使用時期	使用 回数	トリフル ラリンを 含む農薬 の総使用 回数	使用方法
だいず	4～6kg	は種後出芽前	1回	2回 以内 ※1	全面土壌散布
		定植前（植穴掘前）			うね間土壌散布
		生育期（収穫45日前）			
かんしょ	3～4kg	さし苗前 雑草発生前	1回	3回 以内 ※2	全面土壌散布
		さし苗後 雑草発生前 （収穫60日前）	2回 以内		全面土壌散布 または うね間土壌散布
さといも	4～6kg	植付後（植付7日後まで）	1回	1回	全面土壌散布
ばれいしょ	4～5kg	植付後～萌芽前	1回	1回	全面土壌散布

※1 但し、全面土壌混和及び全面土壌散布は合計1回以内、うね間土壌散布は1回以内

※2 但し、さし苗前は1回以内、さし苗後は2回以内

効果・薬害等の注意

- ・ 本剤はイネ科雑草に比べ広葉雑草に対してはやや効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占するほ場で使用するのが効果的である。
- ・ 発生している雑草には効果がないので、雑草発生前に均一に散布するか、または、中耕除草・培土等により除草してから散布する。
- ・ 土壌が非常に乾燥している時は効果が劣るので、土壌が適当に湿っているとき、または、土壌を適当に湿らせてから、表面散布を行う。
- ・ 風によって散布むらを生じやすいので注意する。
- ・ は種後の野菜及び畑作物に使用する場合は覆土が薄すぎないように丁寧に行う。特に、さやいんげん、あずきは薬害を生じやすいので、覆土深は2～3cmになるように注意する。
- ・ 畑作物のは種後に使用する場合は、出芽後の使用は避ける。うね間・株間に使用する場合は、作物にかからないようにする。（薬害）また、実散布面積に応じて使用量を調節する。
- ・ だいず、えだまめのマルチ栽培では使用しない。（薬害）
- ・ さやいんげんのは種前マルチ前に使用する場合は、露地マルチ栽培で使用し、は種部分のマルチ穴開け後2～3日してからは種し、無処理の土で覆土する。
- ・ レタスまたは非結球レタスに使用する場合には、定植5日前までに散布する。（薬害）
- ・ きゅうりに使用する場合には、砂土～砂壤土での使用は避け、地這栽培では使用しない。定植前に使用する場合は植穴を掘る前に使用する。（薬害）
- ・ なすの定植前に使用する場合には、定植3日前までに使用する。（薬害）
- ・ たまねぎの生育期のうね間土壌処理の場合は、中耕除草後に処理する。
- ・ かんしょに使用する場合には、活着するまでに使用する。また、有機質含量の少ない砂質系土壌では使用しない。（薬害）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【クローIPC (IPC45.8%)】

適用作物名	10a 当たり使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	IPCを含む農薬 の総使用回数	使用方法
キャベツ	150~300ml (70~100L)	定植後 (収穫60日前)	1回	1回	株間土壌散布
いちご	150~200ml (70~100L)	定植活着後 (定植7日後)	1回	1回	株間土壌散布
たまねぎ	200~300ml (70~100L)	定植活着後または中耕後 (収穫30日前)	2回 以内	2回 以内	全面土壌散布
にんじん	300~600ml (70~100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
ほうれんそう	100~200ml (70~100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
レタス	300~500ml (70~100L)	定植活着後 (収穫60日前)	1回	1回	株間土壌散布
非結球レタス	300~500ml (70~100L)	定植活着後 (収穫60日前)	1回	1回	株間土壌散布
アスパラガス (定植畑)	250~300ml (70~100L)	培土後雑草発生前 (収穫30日前)	1回	1回	全面土壌散布
アスパラガス (苗床)	200~300ml (70~100L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
未成熟そらまめ	200ml (70~100L)	中耕培土後 (収穫60日前)	1回	1回	全面土壌散布
だいず	200~300ml (70~100L)	は種後発芽前	1回	1回	全面土壌散布
チューリップ	300ml (70~100L)	植付後	1回	1回	株間土壌散布

効果・薬害等の注意

- ・ 本剤は1年生雑草が対象である。冬畑作に多いスズメノテッポウ、スズメノカタビラなどの冬生イネ科雑草、ハコベ、タデ類などの雑草に効果を示す。
- ・ 本剤は高温時には除草効果が十分得られないので、気温20℃以下の時期に使用する。
- ・ 雑草発芽前後または、稚幼期に均一に土壌散布する。
- ・ 洪積土壌では薬害が出にくい、沖積土壌では作物に影響を与えやすいので注意する。砂質土壌では使用しない。(薬害)
- ・ 必ず2~3cmの厚さに覆土を施し、よく碎土し、鎮圧してから散布する。堆肥のみの覆土の場合は使用しない。(薬害)
- ・ 散布後、中耕、培土、土入れなどにより土壌上層を移動すると、雑草の種子が土壌下層より出て発芽し、効果が減ることがあるので注意すること。
- ・ 過乾の場合は効果が顕著でなく、逆に過湿の場合は薬害が生じやすいので、雨天を避け散布する。雨天の場合は、降雨後、土壌水分が適湿の状態になってから散布する。散布後、激しい降雨が予想される場合は、使用を避ける。(薬害)
- ・ 広葉作物の除草に使用する場合には、薬液が作物の茎葉にかからないように注意する。(薬害)
- ・ 著しく低温の場合には、一部原体が結晶析出することもあるが、その場合でも溶かせば効果は変わらないので、瓶のままぬるま湯に浸して十分溶かした後、よく振ってから使用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【クレマートU粒剤（ブタミホス 3.0%）】

適用作物名	10a当たり 使用量	使用時期	使用 回数	ブタミホ スを含む 農薬の総 使用回数	使用方法
キャベツ	4～6kg	定植前～定植直後（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
きゅうり	4～6kg	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
		定植後（雑草発生前、定植10日後まで）			うね間株間土壌散布
すいか	4～6kg	定植・マルチ前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
トマト	4～6kg	定植活着後（雑草発生前、定植10日後まで）	1回	1回	うね間株間土壌散布
くわい	5kg	植付後出芽前（雑草発生前）	1回	1回	たん水散布
たまねぎ	4～6kg	秋まき栽培の定植後または春季の雑草発生前（収穫60日前）	1回	1回	全面土壌散布
	5～7kg	春まき栽培の定植後（雑草発生前、収穫60日前）			
にんじん	4～6kg	は種後発芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
ねぎ	4～6kg	定植活着後（雑草発生前、定植10日後まで）	1回	1回	全面土壌散布
わけぎ	4～6kg	定植活着後（雑草発生前、定植10日後まで）	1回	1回	全面土壌散布
かんしょ	4～6kg	さし苗後（雑草発生前、さし苗3日後まで）	1回	1回	全面土壌散布
さといも	4～6kg	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
ばれいしょ	5～6kg	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
きく	4～6kg	定植後（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
つつじ類	4～6kg	植付後または生育期（雑草発生前）	3回 以内	3回 以内	全面土壌散布

効果・薬害等の注意

- ・ 本剤は1年生雑草（特にイネ科雑草）対象である。多年生雑草、キク科雑草およびツユクサには効果が劣るので、これらの雑草が優占するほ場での使用は避ける。
- ・ 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に使用する。
- ・ 既発生雑草には効果が劣るので、必ず雑草発生前に全面に均一に散布する。
- ・ 作物の生育中に散布する際は、できるだけ作物に薬剤がかからないよう注意する。（薬害）
- ・ キャベツの定植直後に使用する場合、降雨または朝露等により葉面が濡れている状態では使用しない。また、極端な深植えでは使用しない。
- ・ くわいに使用する場合、砂質土壌の水田や漏水田（減水深2cm/日以上）では使用しない。また、散布後少なくとも7日間はそのままたん水状態を保ち、落水、かけ流しはしない。
- ・ かんしょ等に使用する場合、特に砕土、整地、覆土は丁寧に行って、均一に散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ゴーゴーサン乳剤（ペンディメタリン 30.0%）】

適用作物名	10a 当たり使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	ペンディメタリンを含む農薬の総使用回数	使用方法
とうもろこし	200～400ml (70～150 L)	は種後出芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
アスパラガス	200～400ml (70～150 L)	萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
キャベツ	200～400ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
はくさい	200～300ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
カリフラワー	200～400ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
たまねぎ (移植栽培)	300～500ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前） 定植後（雑草発生前、収穫30日前）	1回	1回	全面土壌散布
葉たまねぎ	300～500ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
にんじん	200～400ml (70～150 L)	は種後出芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
ねぎ	200～300ml (70～100 L)	定植後（雑草発生前、定植10日後まで）	1回	1回	全面土壌散布
ふき(春どり露地栽培)	400ml (70～150 L)	春期収穫直後から萌芽前まで（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
ふき (ふきのとう)	400ml (70～150 L)	春期ふき収穫直後から萌芽前まで（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
レタス	200～400ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
非結球レタス	200～400ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
さといも	200～400ml (100 L) 200～400ml (70～100 L)	土寄せ後（雑草発生前、収穫60日前） 植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	2回以内※	全面土壌散布
ばれいしょ	200～300ml (70～100 L)	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
かんしょ	200～400ml (100 L)	さし苗10日後まで（雑草発生前）	1回	1回	うね間土壌散布
きく	200～400ml (70～150 L)	定植前（雑草発生前） 定植後（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
チューリップ	300～500ml (70～150 L)	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布

※ 但し、土寄せ後の処理は1回以内

効果・葉害等の注意

- ・ イネ科及び広葉の1年生雑草には効果はあるが、キク科雑草とツユクサには効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。
- ・ 処理後45～60日の長期にわたって雑草を抑える。
- ・ 雑草の発生前～発芽時に有効である。雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を逃さないように散布する。
- ・ 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので希釈水量を多めにするか、または、降雨後に散布する。
- ・ 碎土、整地はできるだけ丁寧に行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行う。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

— 除草剤 —

- ・ 激しい降雨が予想される場合の使用は避ける。
- ・ キャベツ、はくさい、レタス、非結球レタスのセル成型苗での使用は避ける（レタス、非結球レタスでは、5葉期以上に生育した苗を移植する）。（薬害）
- ・ マルチ栽培のとうもろこしには使用しない。（薬害）
- ・ かんしょで、うね間土壌散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると葉の奇形症状の薬害が生じる恐れがあるので、作物に飛散しないよう注意する。
- ・ きくの品種、栽培条件などによっては、黄化、生育抑制などが生じる恐れがあるので、事前に確認する。（薬害）
- ・ 適用作物群に属する作物または新品種に本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。（薬害）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ゴーゴーサン細粒剤F（ペンディメタリン2.0%）】

適用作物名	10a当たり 使用量	使用時期	使用 回数	ペンディ メタリン を含む農 薬の総使 用回数	使用方法
とうもろこし	5～6kg	は種後出芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
キャベツ	4～5kg	定植前または定植後～定植翌日 （雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
はくさい	4～6kg	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
たまねぎ （秋まき栽培）	5～6kg	定植後または生育期 （雑草発生前、収穫30日前）	1回	1回	全面土壌散布
たまねぎ （秋まきマルチ栽培）	5～6kg	定植前（マルチ前）	1回	1回	全面土壌散布
葉たまねぎ	5～6kg	定植前（マルチ前）	1回	1回	全面土壌散布
にんじん	4～5kg	は種後出芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
ねぎ	4～6kg	定植後（雑草発生前、定植10日後まで）	1回	1回	全面土壌散布
レタス、 非結球レタス	4～6kg	定植前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
アスパラガス	4～6kg	萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
さといも	4～6kg	土寄せ後（雑草発生前、収穫60日前）	1回	2回 以内 ※	全面土壌散布
		植付前（雑草発生前）			
		植付後萌芽前（雑草発生前）			
ばれいしょ （マルチ栽培）	4～6kg	植付後マルチ前（雑草発生前、萌芽前）	1回	1回	全面土壌散布
ばれいしょ （マルチ栽培を除く）	4～6kg	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
きく	4～6kg	定植後（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
チューリップ	4～6kg	植付後萌芽前（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布
つつじ類	4～6kg	生育期（雑草発生前）	1回	1回	全面土壌散布

※ 但し、土寄せ後の処理は1回以内

効果・薬害等の注意

- ・ イネ科及び広葉の1年生雑草には効果があるが、キク科雑草とツユクサには効果が劣るので、これらの雑草の優占ほ場には使用しない。
- ・ 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいるときに散布する。
- ・ 処理後40～60日の長期にわたって雑草を抑える。
- ・ 雑草の発生前～発芽時に有効である。雑草の生育が進むと急激に効果が低下するので、使用時期を逃さないように散布する。
- ・ 碎土、整地は丁寧に行い、は種後に散布する場合は、種子が露出しないように覆土はできるだけ丁寧に行い、覆土深を2～3cm以上とする。
- ・ 激しい降雨が予想される時には使用を避ける。
- ・ キャベツに使用する場合、散布後2～3日間は大量のかん水はしない。
- ・ キャベツのセル成型苗には、使用を避ける。（薬害）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ マルチ栽培のとうもろこしには使用しない。(薬害)
- ・ はくさい、レタス及び非結球レタスに使用する場合、極端な浅植えや深植えに定植したセル成形苗には使用しない(薬害)。レタス、非結球レタスでは、5葉期以上に生育した苗を移植する。
- ・ きくの品種、栽培条件などによっては黄化、抑制等の薬害を生じる恐れがあるので、本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分に確認してから使用する。(薬害)

【アージラン液剤 (アシュラム 37.0%)】

適用作物名	10a 当たり使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	アシュラムを含む 農薬の総 使用回	使用方法
ほうれんそう	秋まき600~800ml (100~200 L)	は種後~子葉展開期	1回	1回	全面土壌散布
	春~初夏まき800~1000ml、 芽出しまきは800ml (100~200 L)				
しそ	500ml (100 L)	生育期(本葉2~3葉期、 収穫45日前)	1回	1回	雑草茎葉散布

効果・薬害等の注意

- ・ 雑草茎葉部または根部より吸収されて生長点に移行集積する吸収移行型除草剤で遅効的であるため、散布時期が遅れると効果が劣るので時期を失ないように散布する。
- ・ 局所散布および群生地散布の場合には必要に応じて展着剤を加用し、所定薬量内で雑草の茎葉部をねらって十分散布する。
- ・ ヒユ科、アカザ科、カヤツリグサ科雑草及びザクロソウ、ツユクサ、ギョウギシバに対して効果が劣るので、これら雑草の優占ほ場での使用は避ける。
- ・ 砂土での土壌処理は、発芽前雑草に対して効果が劣るので使用を避ける。
- ・ ほうれんそうでは高温時(気温 25℃以上)には使用しない。施設栽培(ハウス、雨よけ、トンネル等)など高温となる条件では使用しない。(薬害) また、砂壤土、砂土では薬害が生じやすいので注意する。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ロックス (リニュロン 50.0%)】

適用作物名	適用雑草名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用回数	リニュロンを含む 農薬の総 使用回数	使用方法
とうもろこし	一年生雑草	100~200g (70~150 L)	は種直後	1回	1回	全面土壌散布
えだまめ、 だいず		100~200g (70~150 L)	は種直後~出芽前 (雑草発生前~発生始期)	1回	2回 以内 ※1	全面土壌散布
			本葉3葉期以降(雑草生育期、 収穫30日前)	1回		雑草茎葉兼土 壌散布(うね間 ・株間処理)
にんじん		100~200g (70~150 L)	は種直後	1回	2回 以内 ※2	全面土壌散布
			100~150g (70~150 L)	にんじん3~5葉期 (雑草発生始期、収穫30日前)		
ねぎ (露地栽培)	一年生 広葉雑草	100~150g (70~150 L)	定植後 (雑草発生前、収穫30日前)	1回	1回	うね間土壌散 布
		75~150g (100 L)	定植30日後以降中耕培土後 (雑草発生揃期、収穫30日前)	1回		雑草茎葉散布ま たは全面散布
みつば	一年生 雑草	100~150g (70~150 L)	は種後出芽前(雑草発生前)	1回	1回	全面土壌散布
アスパラガス		150~200g (70~150 L)	萌芽前 (雑草発生前~発生始期)	1回	2回 以内 ※1	全面土壌散布
		150~200g (100~150 L)	萌芽始期(雑草発生前~発生 始期、収穫前日)			
	一年生 広葉雑草	150~200g (100 L)	生育期 (雑草生育期、収穫前日)	1回		雑草茎葉兼土 壌散布(うね間 ・株間処理)
かんしょ	一年生 雑草	200g (70~150 L)	種いも植付後萌芽前まで	1回	2回 以内 ※1	全面土壌散布
		150~200g (70~150 L)	苗移植前まで			
	一年生 広葉雑草	100~200g (70~150 L)	生育期 (雑草生育期、収穫45日前)	1回		雑草茎葉兼土 壌散布(うね間 処理)
さといも	一年生 雑草	100~200g (70~150 L)	植付直後	1回	1回	全面土壌散布
ばれいしょ		100~200g (70~150 L)	植付直後~萌芽前	1回	1回	全面土壌散布

※1 但し、全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内

※2 但し、は種直後は1回以内、にんじん3~5葉期は1回以内

効果・薬害等の注意

- ・ 畑地一年生雑草全般、特に広葉雑草に効果が高い。
- ・ 激しい降雨が予想される場合は使用しない。
- ・ 砂土では使用しない。砂質で水はけの良い畑では薬量を控えめにする。
- ・ マルチ栽培、トンネル栽培では使用しない(かんしょ、にんにくを除く)。(薬害)
- ・ とうもろこしでは、スーパースイート系の品種には使用しない。(薬害)
- ・ にんじんでは、発芽直後から3葉期未満までは使用しない。高温時は使用しない。(薬害)
事前に栽培する品種での薬害の有無を確認すること。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

— 除草剤 —

- ・ ねぎの雑草茎葉散布または全面散布で使用する場合、展着剤の混用及び7日以内の近接散布は行わない。(薬害)
- ・ アスパラガスでは、うね間・株間処理に使用する場合は擬葉にかからないよう散布する。(薬害)
- ・ 高うね栽培のかんしょに使用する場合、無マルチ栽培の苗移植前処理には使用しない。(効果不足) また、作物にかからないよううね間散布する。(薬害)
- ・ だいず及びえだまめのうね間・株間処理に使用する場合、専用ノズルを使用すること。また、噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布すること。

イ 茎葉処理型除草剤の例

【バスタ液剤 (グルホシネート 18.5%)】

適用作物名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用 回数	グルホシネート 及びグルホシネ ートPを含む農 薬の総使用回数	使用 方法
かぶ	300~500ml (100~150L)	は種前(雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	雑 草 茎 葉 散 布
		定植前(雑草生育期)			
		収穫21日前まで(うね間処理:雑草生育期)			
キャベツ、はくさい		収穫45日前まで (雑草生育期 定植前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	
だいこん		収穫45日前まで (雑草生育期 は種前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	
すいか、ねぎ、たまねぎ、ブロッコリー		収穫前日まで (雑草生育期 定植前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	
うり類(未成熟)		収穫前日まで(雑草生育期 は種・定植前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内	
トマト、ミニトマト、ピーマン、なす、とうがらし類、いちご		収穫前日まで (雑草生育期 定植前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内	
えだまめ		は種前(雑草生育期)	3回 以内	3回 以内	
		は種後出芽前(雑草生育期)			
	定植5日前まで(雑草生育期)				
	収穫14日前まで(うね間処理:雑草生育期)				
豆類(未成熟 除えだまめ)	収穫前日まで(雑草生育期 は種・定植前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内		
にんじん、オクラ	収穫前日まで (雑草生育期 は種前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内		
ほうれんそう	収穫7日前まで (雑草生育期 は種前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内		
みつば	収穫7日前まで (雑草生育期 は種前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内		
レタス、非結球レタス、かぼちゃ	収穫30日前まで (雑草生育期 定植前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内		

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【バスタ液剤（続き）】

適用作物名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用 回数	グルホシネート 及びグルホシネ ートPを含む農 薬の総使用回数	使用 方法
ふき	300～500ml (100～150L)	収穫120日前まで (雑草生育期 定植前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	雑 草 茎 葉 散 布
ふき (ふきのとう)		収穫75日前まで (雑草生育期 定植前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	
アスパラガス		収穫前日まで (雑草生育期 萌芽前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	
		収穫打切り後(雑草生育期)			
さといも		収穫30日前まで (雑草生育期 植付前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内	
さといも (葉柄)	収穫7日前まで (雑草生育期 植付前またはうね間処理)	3回 以内	3回 以内		
かんしょ	200～500ml (100～150L)	収穫14日前まで (雑草生育期 さし苗前またはうね間処理)	2回 以内	2回 以内	
ばれいしょ	100～200ml (100～150L)	雑草生育期植付前または植付後萌芽直前	1回	3回 以内	
	300～500ml (100～150L)	収穫21日前まで (うね間処理：雑草生育期)	2回 以内	※	
花き類・観葉植物		雑草生育期(うね間処理)(草丈20cm以下)	3回 以内	3回 以内	

※ 但し、萌芽前は1回以内、萌芽後は2回以内

効果・薬害等の注意

- ・ 表中作物での登録内容は、1年生雑草を対象とする。
- ・ 非選択性茎葉処理型除草剤である。
- ・ グルホシネートは土壌に落下すると速やかに不活性化し効果がなくなるので、薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。また雑草が大きくなりすぎると効果が低下するので、時期を逃さないよう散布する(草丈15～30cmが目安)。なお、効果の発現を確認したら、すぐに後作物のは種、定植が可能である。
- ・ 作物に薬液が付着すると薬害が生じるので、特に野菜類の生育期うね間散布で使用する場合は、作物にかからないよう十分注意する。
- ・ 散布後6時間以内の降雨は効果が減少することがあるので、天候をよく見極めてから散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ナブ乳剤 (セトキシジム 20.0%)】

適用作物名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用 回数	セトキシジムを含む農薬の総使用回数	使用方法
アスパラガス	200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)	収穫前日	1回	雑草茎葉散布または全面散布
かぶ、カリフラワー、 非結球あぶらな科葉 菜類、ほうれんそう、 レタス	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫7日前	1回	
	200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)			
かぼちゃ、すいか、ト マト、豆類(未成熟)	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫14日前	1回	
にんじん	200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)	収穫14日前	1回	
	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫開始 14日前	1回	
いちご	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫14日前	1回	
	200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)			
たまねぎ	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫14日前	2回 以内	
	200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)			
ねぎ	150~200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫30日前	1回	
	200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)			
さといも	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫30日前	1回	
	200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)	収穫前日	2回 以内	
だいず	150~200ml (通常散布 50~150 L) (少量散布 25~50 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	収穫30日前	1回	
	200ml (通常散布 50~100 L) (少量散布 25~50 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)			
	250~300ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草9~10葉期)			

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

— 除草剤 —

適用作物名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期		使用 回数	セトキシジ ムを含む農 薬の総使用 回数	使用 方法
かんしょ	200ml (100 L)	雑草生育期 (イネ科雑草6~8葉期)	収穫30日前	1回	1回	また は 全 面 散 布
きく	150~200ml (100~150 L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5葉期)	—	3回 以内	3回 以内	

効果・薬害等の注意

- ・ 本剤は1年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）対象である。
- ・ 非ホルモン系の吸収移行型の除草剤で、イネ科植物の茎葉部から吸収され生長点付近に移行して、伸長抑制をおこし、イネ科植物だけを枯死させる。
- ・ 広葉雑草およびカヤツリグサ科には効果がないので、イネ科雑草優占ほ場で使用する。広葉雑草などが混在する場合には、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。
- ・ イネ科雑草の3葉期から分けつ中期（第3、第4分けつ期）の間に散布する。
- ・ イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7~10日要するので、誤って散布し直すなどしないように注意する。
- ・ イネ科作物には薬害があるので、周囲のイネ科作物に薬液が飛散しないように注意する。
- ・ 薬剤は散布後、速やかに吸収されるので、散布液が乾けばその後の降雨による殺草効果に影響はない。
- ・ 土壌中では短時間で分解されるため、後作物への影響がない。
- ・ 冬期の低温期や出穂期以降など、雑草の生育が停止している場合には、効果が劣るので使用は避ける。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【セレクト乳剤 (クレトジム 24.0%)】

適用作物名	適用雑草名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期		使用 回数	クレトジ ムを含む 農薬の総 使用回数	使用 方法			
キャベツ、 だいこん、 かぼちゃ、 ねぎ、 ばれいしょ	一年生 イネ科雑草	50~75ml (100L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5 葉期)	収穫30日前	1回	1回	雑草茎葉 散布または 全面散布			
	えだまめ	一年生 イネ科雑草(除ス ズメノカタビラ)	35~50ml (100L)	雑草生育期 (イネ科雑草5~8 葉期)	収穫14日前	1回		1回		
スズメノカタビラ		雑草生育期 (イネ科雑草3~5 葉期)		収穫21日前	3回 以内	3回 以内				
たまねぎ	一年生 イネ科雑草	収穫40日前	1回					1回		
にんじん	スズメノカタビラ	50~75ml (100L)	雑草生育期 (イネ科雑草5~8 葉期)					収穫前日	2回 以内	2回 以内
アスパラガス			雑草生育期 (イネ科雑草3~5 葉期)					収穫50日前	1回	1回
だいず	一年生 イネ科雑草(除ス ズメノカタビラ)	35~50ml (100L)	雑草生育期 (イネ科雑草5~8 葉期)							
		50~75ml (100L)								
かんしょ	一年生 イネ科雑草	50~75ml (100L)	雑草生育期 (イネ科雑草3~5 葉期)	収穫100日前	1回	1回				

効果・葉害等の注意

- ・ イネ科雑草優占のほ場で使用すること。広葉雑草及びカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用すること。
- ・ 展着剤を加用するとより一層効果的である。
- ・ イネ科雑草の生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、時期を逸しないように均一に散布すること。
- ・ やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1週間から2週間前後を要するが、スズメノカタビラに対してはさらに期間を要する場合があるので、誤ってまき直しなどしないように注意すること。
- ・ イネ科作物には薬害をおこす恐れがあるので、周囲にイネ科作物がある場合は、薬剤が飛散しないように注意すること。
- ・ 激しい降雨の予想される場合は使用を避けること。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ラウンドアップマックスロード (グリホサートカリウム塩 48.0%)】

適用作物名	適用雑草名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用 回数	グリホサ ートを含 む農業の 総使用回 数	使用 方法	
とうもろこし	一年生及び 多年生雑草	200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	とうもろこし出芽前まで (雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	雑 草 茎 葉 散 布	
野菜類(除えだま め、はくさい、キ ャベツ、アスパラ ガス、レタス、ね ぎ、たまねぎ、に んにく、ほうれん そう、にんじん、 だいこん、トマ ト、ピーマン、と うがらし類、きゅ うり、なす、びわ (葉)、オリーブ (葉)、たらのき、 薬用にんじん、い も類、豆類(種 実))	一年生雑草	200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布5~50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	1回	1回		
キャベツ			耕起前または定植5日前 まで(雑草生育期)	1回	1回		
だいこん			耕起前またはは種前まで (雑草生育期)	2回 以内	2回 以内		
			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	収穫5日前まで (雑草生育期:うね間処理)			
はくさい			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布5~50 L)	耕起前または定植5日前 まで(雑草生育期)	1回		1回
きゅうり			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	2回 以内		3回 以内
			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)			
トマト			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布5~50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	1回		3回 以内
ピーマン			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	2回 以内		2回 以内
			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)			
なす			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布5~50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	2回 以内		3回 以内
			200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)			

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ラウンドアップマックスロード (続き)】

適用作物名	適用雑草名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用 回数	グリホサ ートを含 む農薬の 総使用回 数	使用 方法
とうがらし類	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	雑 草 茎 葉 散 布
		200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)			
えだまめ	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前または出芽前まで (雑草生育期)	3回 以内	3回 以内	
		200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)	2回 以内		
たまねぎ (秋まき栽培)	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起5日前まで (雑草生育期)	3回 以内	3回 以内	
		200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	収穫7日前まで (雑草生育期:うね間処理)			
にんじん	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前またはは種前まで (雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	
ほうれんそう	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前またはは種前まで (雑草生育期)	3回 以内	3回 以内	
ねぎ	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前または定植5日前 まで(雑草生育期)	3回 以内	3回 以内	
		200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	収穫30日前まで (雑草生育期:定植後うね 間処理)			
レタス	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前または定植5日前 まで(雑草生育期)	3回 以内	3回 以内	
アスパラガス	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布5～50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	1回	3回 以内	
		200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)	2回 以内		
	スギナ	1500～2000ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)				
豆類(種実、ただ し、除だいず、あ ずき、いんげんま め、らっかせい)	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	耕起前またはは種前まで (雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	
いも類 (除かんしょ)	一年生雑草	200～500ml (通常散布50～100 L) (少量散布25～50 L)	耕起前または植付前まで (雑草生育期)	1回	1回	

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【ラウンドアップマックスロード (続き)】

適用作物名	適用雑草名	10a 当たり 使用量 (散布液量)	使用時期	使用 回数	グリホサ ートを含 む農薬の 総使用回 数	使用 方法
かんしょ	一年生雑草	200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	耕起前またはさし苗前 まで(雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	雑 草 茎 葉 散 布
			収穫60日前まで (雑草生育期:うね間処理)			
だいず	一年生雑草	200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布5~50 L)	耕起前または出芽前 まで(雑草生育期)	2回 以内	4回 以内	
			収穫前日まで (雑草生育期:うね間処理)			
			500ml (50~100 L)	落葉終期~収穫14日前 まで(雑草生育期)	1回	
花き類・観葉植物 (除きく)	一年生雑草	200~500ml (通常散布50~100 L) (少量散布25~50 L)	耕起前まで(雑草生育期)	2回 以内	2回 以内	
きく			耕起前まで(雑草生育期)			
			雑草生育期うね間処理	2回 以内	2回 以内	

効果・薬害等の注意

- ・ 土壤中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- ・ 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。
- ・ 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないよう十分注意する。
(だいずの落葉終期~収穫14日前までに散布する場合を除く)
- ・ 散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わない。
- ・ 本剤は通常2~7日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しない。
- ・ スギナ防除に際しては、スギナが他雑草の中に埋没しているような条件の散布では効果が劣ることがあるので、スギナにかかるように注意して散布すること。
- ・ 1年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用する。
- ・ 生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用する。
- ・ 処理後1時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候をよく見極めてから散布する。
- ・ 少量散布の場合は、希釈水量 (5~25 L / 10a または 25~50 L / 10a) に応じ、それぞれ専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布すること。
- ・ 生育期うね間処理で使用する場合は、飛散防止カバーを使用し、作物体にかからないように散布すること。
- ・ 作物の出芽前に使用する場合、出芽後に散布すると薬害を生じる恐れがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- ・ だいずの落葉終期~収穫14日前に使用する場合は以下の点に注意する。
 - 1) 落葉終期とは、だいずの葉の大部分が落葉した時期とする。
 - 2) だいず着生葉や莢色に淡緑色が残っているなどの成熟の遅れた株(青立ち株)に散布すると、子実の変色やしわ粒などが発生する場合がありますので、散布前に除去などを行う。
 - 3) 水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉が枯れても果実が残る場合があり、汚損粒の原因になるので収穫前に除去等を行う。
 - 4) 気温が低下する条件での処理であり、効果の完成まで2週間以上の期間を要するので、収穫時期は処理後3週間を目安とする。

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。